



ヒメハナカミキリ属の分布資料(1)

鈴木和利・峰 薫

ここ数年、ヒメハナカミキリ類 *Pidonia* を求めて、本州の太平洋岸の山々を主として調査しているが、かなりの量の記録が手許に溜ったので、最近記載された種を主として報告を作製してみた。この報告をするに当たり、写真の撮影その他すべての面で協力して頂いた窪木幹夫氏に厚く御礼を申し上げる。

なお、下記の記録の中で筆者等が採集したものは、いずれも採集者名を省略した。また、採集地点の標高も大よそのもので詳しいものではない。

1. ヤマトヒメハナカミキリ *P. yamato* HAYASHI et MIZUNO, 1953

3♂♂, 2♀♀, 静岡県安倍峠 (1300m), 12. vi. 1977.

すでにこの地で採集されているとのことで、その確認のため訪れたが、ウシコロン、キイチゴなどの花上より採集することが出来た。おそらく本種の分布東限と思われる。また、同時にホソガタヒメハナカミキリ *P. semiobscura* も採集することが出来た。

2. ミヤマヒメハナカミキリ *P. sylvicola* KUBOKI, 1977 (写真 1a, 1b)

6♂♂, 3♀♀, 山梨県七面山 (1700m), 31. vii. 1977; 2♂♂, 2♀♀, 岐阜県恵那山 (1200m), 11. vi. 1978.

3. イヨヒメハナカミキリ *P. hylophila* KUBOKI, 1977 (写真 2a, 2b)

3♂♂, 3♀♀, 奈良県大峰山稲村ヶ岳 (1550m), 19. vi. 1977; 1♂, 同山山上ヶ岳 (1450m), 19. vi. 1977; 8♂♂, 3♀♀, 同山地蔵岳 (1400m), 20. vi. 1977.

四国と九州から記載された種であるが、大峰山に広く分布することが判った。同地ではこの他に近似したニセヨコモンヒメハナカミキリ *P. simillima* とヨコモンヒメハナカミキリ *P. insuturata* とを産し、合計3種が広範囲に混棲している。なお、大峰山南部に地藏岳は2箇所あるが、採集地は北の地藏岳 (1464m) である。

4. クロヨコモンヒメハナカミキリ *P. haya hii* KOIKE, 1971 (写真 3a, 3b)

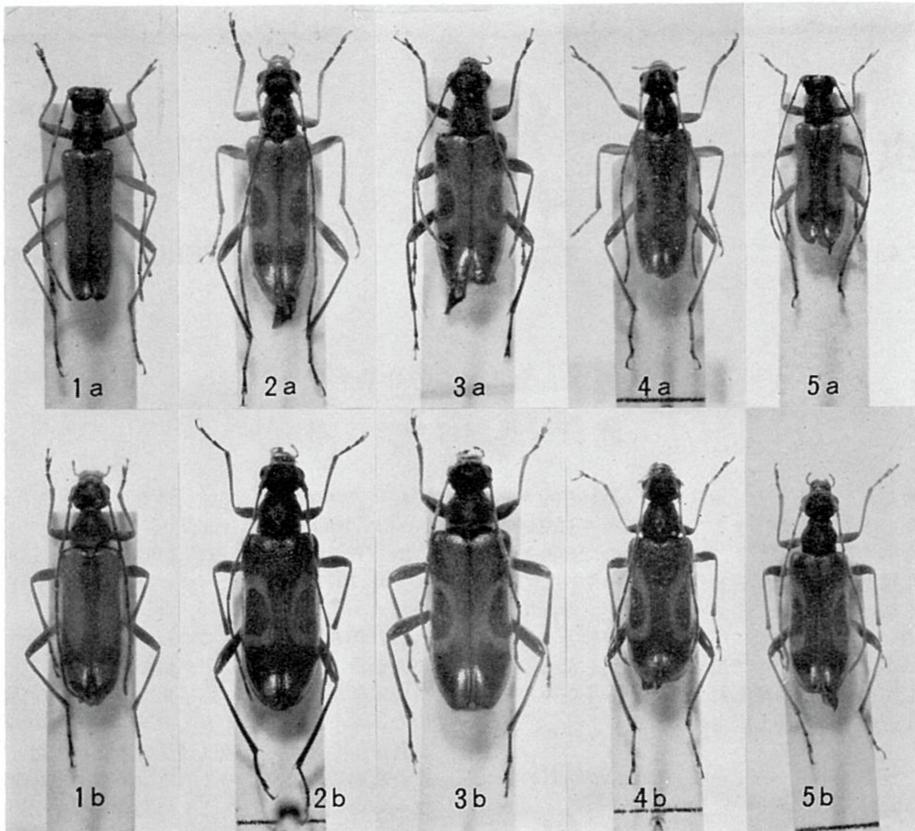
24♂♂, 9♀♀, 新潟県北魚沼郡平ヶ岳 (1700m), 4. viii. 1977; 15♂♂, 4♀♀, 福島県南会津郡松枝村大杉岳 (1750m), 5. viii. 1977.

1977年8月1~5日に松枝村御池に泊り、周囲の大杉岳、燧岳北面、平ヶ岳などを調べ、上記2個所で本種を発見した。燧岳東面の沼山峠付近では近似のヨコモンヒメハナカミキリ *P. insuturata* を多数採集したが、本種は発見できなかった。しかし、松枝村周辺では上記の3個所以外に両種を全く認めなかった。なお、我々はまだ調査していないが、会津駒ヶ岳東南面ではヨコモンヒメハナカミキリが採集されているので、現在までに両種の混棲地はまだ発見されていないが、あるいはこの地域に両種の混棲地があるかも知れない。今後この地方を訪れる方は注意して頂きたい。上翅の斑紋は原産地の苗場山と上記平ヶ岳産の標本は、合計130頭も検したが、極めて安定しているのに反し、大杉岳産のものは比較的变化に富んでいる点は注目される。

5. トサヒメハナカミキリ *P. approximata* KUBOKI, 1977 (写真 4a, 4b)

2♂♂, 2♀♀, 群馬県碓氷郡霧積温泉 (1000m), 19. vi. 1977, 露木繁雄採集; 1♂, 2♀♀, 東京都奥多摩町小川谷, 31. v. 1977, 山上 明採集; 1♂, 小梨県南都留郡三ツ峠 (1300m), 6. vi. 1977; 5♂♂, 8♀♀, 山静岡原郡蕎麦粒山 (1400m), 16. vi. 1975; 2♂♂, 5♀♀, 愛知県北設楽郡楽段戸山 (900m), 15. vi. 1976; 3♂♂, 7♀♀, 29. v. 1977, 同上; 1♂, 1♀, 愛知県北設楽郡面ノ木峠 (1100m), 11. vi. 1977, 小林敏男採集; 1♀, 奈良県大峰山地蔵岳 (1400m), 20. vi. 1977.

本種は形態上から近似種のミワヒメハナカミキリ *P. miwai* から区別されるが、その他にも、原記載にある通り、ミワヒメハナカミキリはブナに代表される冷温帯落葉樹林に、本種はモミ、ツガに代表される温帯性針葉樹林に「棲み分け」している点で区別



され、我々の調査でも、本種はモミ、ツガ林を調べることによって発見出来た。なお、大峰山地蔵岳の1♀は1977年6月19~21日に山上明氏と筆者等3人で採集したヒメハナカミキリ類1500頭の中に見出したただ1頭である。嫁越峠から地蔵岳を経て涅槃岳に至る尾根筋はブナの原生林の中にモミ、ツガの巨木が点在する、本種にとって理想的な環境と思われるが、上記の1頭を得ただけであった。大日岳とそれ以南の太古ノ辻から南に下る尾根筋の奥駈道は丹沢の中心部や蕎麦粒山を思わせるほど、咲いている花(ウシコロシ、ズミ、ガマズミ類、ウツギ類など)、あたりの環境、ヒメハナカミキリ類調査の折に採れるカミキリ類(ヘリドロホソハナ、ヘリウスハナ、セダコブヤハズなど)などもよく似ている。北部の稲村ヶ岳、山上ヶ岳などとはヒメハナカミキリ類の種類(ヤマトヒメハナの多いことは異なる)は全く同様であるが、花の種類多さ(北部ではウシコロシのみ)、ヒメハナカミキリ類以外のカミキリ類の種類相違、同じ種類の花の開花期の相違などは注目してよいであろう。

6. フジヒメハナカミキリ *P. fujisana* OBIKI et KUSAMA, 1971 (写真5a, 5b)

5♂♂, 1♀, 神奈川県丹沢山天王子尾根(丹沢山東面(1300m), 24. vi. 1975; 6♂♂, 同山松洞丸

(1600m), 27. vi. 1976; 2♂♂, 2♀♀, 同山石棚山(1400m), 27. vi. 1976; 3♂♂, 3♀♀, 同山畦ヶ丸(1250m), 3. vi. 1978; 1♂, 山梨県都留市御正体山(1400m), 20. vi. 1976; 1♂, 山梨県都留市三ツ峠山清八峠(1500m), 20. vi. 1977; 4♂♂, 4♀♀, 山梨県富士山精進口登山道二合目付近(1550m), 26. vi. 1977; 9♂♂, 3♀♀, 静岡県富士山時塚(1450m), 26. vi. 1977; 16♂♂, 16♀♀, 静岡県井川峠付近(一服峠~北立場)(1400m), 12. vi. 1977.

御正体山のは採集したヒメハナカミキリ類334頭の中に1頭だけ見出したものである。温帯性針葉樹林帯に属する三ツ峠山の清八峠付近は、針葉樹林中にブナが点在し、周囲の御正体山、丹沢などの山々とは花の種類も異り、この季節にヒメハナカミキリ類は少なく、採集した数は30頭であった。井川峠付近を調査した時には5種66頭で、本種が全体の48%を占め、最優占種であった。表富士地域が平均10%の比率で、他の丹沢山塊6箇所、安倍峠付近3箇所、表富士以外の富士山3箇所の比率が2%にも満たない点に較べると極めて興味深い。

末筆ながら貴重な記録の発表を快諾いただいた、露木繁雄、山上明、および小林敏男の諸氏に厚く御礼申し上げる。(神奈川県藤沢市)

タイワントゲヒラタハナムグリ雄の記録

小林 裕 和

タイワントゲヒラタハナムグリ *Charitovalgus formosanus* は、沢田玄正博士によって1939年に台湾の霧社の近くの万大社で得られた1個体の雌に基づき記載された種である。その後、長い間本種が採集されたという報告はなく、雄は依然として未知のままであった。最近筆者は、台湾の拉拉山付近で採集された多数の個体を調査することができたので、簡単な記載をするとともに、雄交尾器をも図示することとした。

なお、本編を書くにあたり貴重な標本を恵み下さった下村 徹、斉藤秀生の両氏に、心よりお礼申し上げます。

(雄) 体長：6～7mm 体幅；3mm

頭部：黒褐色又は暗褐色。頭楯前縁は明らかに湾入するが、二裂状とはならない。触角は8節で基節は非常に大きく、葉片状を呈する先端の3節は柄部とほぼ等長である。眼は比較的小さく、触角の付根後方にコブ状の隆起がある。

前胸背：黒褐色、幅は長さとはほぼ等しく、側縁は鋸歯状を呈し、基部より前方に向かって狭くなる。前縁角は鋭く突出する。背面中央より前方に向かって顕著な隆起線が見られ、その後方は広くえぐられる。また、側方中央部にも大きな凹陷部を有する。

上翅：中央部分は黒褐色又は黒色で、側縁は赤褐色に幅広く縁どられる。ほぼ中央には三日月形の灰白鱗毛を有し、翅端会合部付近及び小楯板の周際にも同色の小紋を有する。(側縁の赤褐色部分及び、灰白紋については、かなり変化が見られ、赤褐色の部分や灰白紋がほとんど消失する個体などもある)

腹面：黒色又は黒褐色で、中央は前尾節板を除き幅広く灰白色の鱗毛でおおわれる。

脚：各肢とも赤褐色で、灰白色の鱗毛を散在させる。前脛節は、明らかな3外歯と第2、第3歯の中間に不明瞭な小歯を有する。

産地：桃園県拉拉山(拉拉山)付近(14♂♂, 27. v. 1978, 下村 徹採集, 2♂♂, 27. v. 1978, 斉藤秀生採集)；桃園県池の端(1♂, 28. v. 1978, 下村徹採集, 10♂♂, 29. v. 1978, 下村 徹採集)。

本属は、雌が尾節板に長い突起を有することで、*Valgus* 属や *Chromovalgus* 属などと共通する特徴を持っている。在現までに、台湾にもう1種の *C. banzai* SAWADA が分布するほか、ネパール、ビルマ、ボルネオ、スマトラなどの地域から数種が知られているにすぎない比較的小きな属である。

また、本種の模式標本は、第二次大戦の折焼失してしまい検討することはできなかった。



Charitovalgus formosanus
SAWADA (雄)

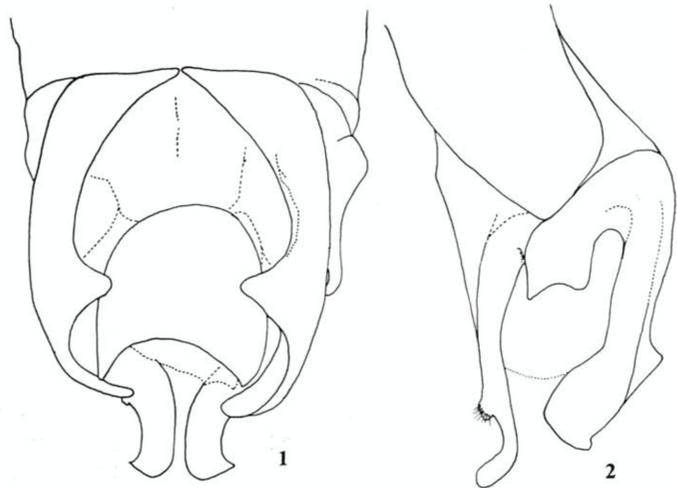


図 1,2 雄交尾器 (1: 背面図 2: 側面図)

(東京都練馬区)

○沖縄県久米島のカミキリムシ

沖縄県久米島は沖縄本島から距離的に近く、交通の便も良い。しかしながら、この島から昆虫、特に甲虫類の記録は少ないようで、カミキリムシ科については高良・東(1974)の3種、堤(1978)の18種が報告されているだけと思われる。

筆者は、1978年5月7日より10日まで久米島で甲虫類の採集を行なったが、その時得られたカミキリムシ15種類を報告しておく。同定は奈良 一氏にお願いした。誌上にてお礼申し上げる。

なお、採集年月はすべて1978年5月であるのでリスト中では日にちのみ記し、地名は次のように地元の様子に従った。西銘(Nishime)、大岳(Ootake)、阿良岳(Aradake)、真謝(Maja) また、和名に*印を付した種類は高良・東(1974)と堤(1978)のいずれにも記録されていないものである。

1. ケプトハナカミキリ**Caraphia (Neosalpinia) lepturoides* (MATSUSHITA)

1頭、大岳、7日; 41頭、阿良岳、8日; 1頭、大岳、10日。

2. リュウキュウヒメカミキリ *Ceresium fuscum* MATSUMURA et MATSUSHITA

11頭、西銘、7日; 7頭、大岳、7日; 2頭、阿良岳、8日; 6頭、大岳、10日。

3. コウノゴマフカミキリ *Mesosa (Mesosa) konoi okinawana* HAYASHI

1頭、大岳、7日。

4. オキナワウスアヤカミキリ *Bumetopia japonica okinawana* HAYASHI

2頭、西銘、7日; 16頭、大岳、7日; 8頭、阿良岳、8日; 1頭、真謝、9日; 7頭、大岳、10日。

5. アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata loochooana* BREUNING

1頭、西銘、7日; 7頭、大岳、7日; 2頭、阿良岳、8日; 1頭、真謝、9日; 3頭、大岳、10日。

6. アトモンチビカミキリ *Sybra baculina omoro* HAYASHI

7頭、西銘、7日; 3頭、大岳、7日; 2頭、阿良岳、8日; 6頭、大岳、10日。

7. フタモンサビカミキリ**Ropica caenosa* (MATSUSHITA)

4頭、大岳、7日; 2頭、阿良岳、8日; 6頭、大岳、10日。

8. タテスジドウボソカミキリ**Pothyne albolineata* MATSUSHITA

3頭、大岳、7日; 1頭、阿良岳、8日。

高良・東(1974)にあるタテスジドウボソカミキリは、堤(1978)によればスジシロカミキリの誤同定であるという。

9. ヤノヤハズカミキリ *Niphona yanoi* MATSUSHITA

2頭、大岳、7日; 3頭、阿良岳、8日。

10. オキナワハネナシサビカミキリ *Pseudale obovata* HAYASHI

2頭、大岳、7日。

11. ムモンアラゲサビカミキリ* *Egesina (Niijimaia) flavoapicalis* HAYASHI

11頭、大岳、10日。

12. オオシマヤハズカミキリ *Uraecha oshimana* BREUNING

2頭、大岳、7日; 2頭、大岳、10日。

13. コゲチャサビカミキリ* *Mimectatina meridiana* (MATSUSHITA)

3頭、大岳、7日; 5頭、大岳、10日。

14. アトモンマルケンシカミキリ* *Exocentrus (Exocentrus) lineatus okinawensis* BREUNING et OHBAYASHI

4頭、大岳、7日; 1頭、阿良岳、8日; 1頭、大岳、10日。

15. アマミリンゴカミキリ* *Oberea shibatai* HAYASHI

2頭、大岳、7日; 1頭、真謝、9日。

(和歌山市, 平松広告)

○イトヒゲニセマキムシ丹沢に産す

イトヒゲニセマキムシ *Dasycerus japonicus* NAKANE はハネカクシ科ニセマキムシ科 *Dasyceridae* に属し、日本では本科唯一の種で、極めて特異なグループの甲虫である。

本種は中根猛彦博士(1963)が兵庫県篠山の標本をもとに記載されたもので、その後の報告はないと思う。

筆者は神奈川県丹沢、大山中腹にて採集したので、新産地として報告しておくたい。

1頭、丹沢大山 3. viii. 1977.

(神奈川県小田原市, 平野幸彦)

○北海道におけるヒョウタンゴミムシの分布

ヒョウタンゴミムシ *Scarites aterrimns* MORAWITZ は海浜性の種で、わが国では北は北海道から南は九州まで、また国外では朝鮮半島や中国北部に分布することが知られていて、道外では普通種である。

北海道における採集記録はごく少なく、従来日本海に面した渡島、桧山両管内の海岸でとれることがわかっていた。筆者の一人松本は上記の生息地域よりもさらに北上した留萌管内小平町臼谷において、1977年7月5日に海岸の波打際にあげられた海藻や芥の下の砂中より数頭採集することができたが、その後臼谷より若干南部の増毛で、また北部の鬼鹿でも得られた。

本種は夜行性で、日中は砂中にひそんでいるために、一般に目にふれることが少ないようで、ここまで分布していることに気がつかなかったものと思われる。なお本種の北海道における分布の北限がどの辺までかについては、今後の調査にまたなければならぬが、興味ある問題である。

以上、分布の北限の記録として報告しておく。

(北海道河西郡芽室町, 井上 寿; 北海道旭川市東鷹栖, 松本英明)

○甌島のタマムシ類

榎原 寛氏(九州大学農学部)の甌島での採集品の中に下記のタマムシ類を発見したので記録しておく。共に同島からは初のものである。

1. ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E. SAUNDERS 2♀♀, 下甌島手打, 5~6. viii. 1975, 榎原 寛採集。

九州週辺の離島では種子島, 屋久島および対馬から知られていた。

2. クズノチビタマムシ *Trachys auricollis* E. SAUNDERS 2頭, 下甌島手打, 6. viii. 1975, 榎原 寛採集。

3. ヒラタチビタマムシ *Habroloma elegantulum* (E. SAUNDERS) 1頭, 下甌島手打, 6. viii. 1975, 榎原 寛集。(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○キムネヒメカネコメツキ九州に産す

キムネヒメカネコメツキ *Kibunea ignicollis* (LEWIS) は LEWIS (1894) の Nikko, MIWA (1934) の北海道 Nopporo, 中根・岸井 (1955) の三重県大杉谷, 大平・大川 (1976) の三重県が知られているだけの稀種である。筆者はかつて群馬県武尊山で4頭得たことがある(未発表)が, その前胸の金赤色に輝く色彩にすっかり魅せられた程の魅惑的なコメツキムシである。

このたび筆者は, 宮崎県椎葉村と熊本県矢部町の境界の椎矢峠(標高約1400m)附近で, 1978年8月13日に本種を1頭得た。本種は中国, 四国, 九州からは未記録なので, 九州新記録として報告しておく。

末筆ながら, 分布については大平仁夫氏よりご教示いただいたので深謝申し上げる。

(福岡県宇美町, 入江平吉)

○*Tilloidea munin* NAKANE の幼虫の食性について

カッコウムシ科の小笠原特産種である *Tilloidea munin* NAKANE が小笠原のマルバヤブニッケイ *Cinnamomum pseudo-pedunculatum* HAYATA とと思われる枯材中から脱出したので, ここに書きとめておく。

1976年に小笠原へ渡島した際に, 母島評議平とこちらも谷付近からマルバヤブニッケイと思われる新しい枯枝を採取してきたところ, 1977年と1978年に計8頭の本種が脱出した。同時にこの枯枝からは多数のオガサワラモモトコバナカミキリ *Merionoeda (Ocytasia) tosawai* KOBAYASHI と7頭のオガサワラチャイロカミキリ *Comusia testacea* (GRESSITT) が脱出し, その他にオガサワラトビイロカミキリ *Allotraeus (Nysina) boninensis* GRESSITT のものと考えられる幼虫の食痕も認められた。

以上の点と, カッコウムシ科の幼虫が食肉性である点とを併せ考えれば, *Tilloidea munin* NAKANE の幼虫は上記のカミキリ3種の幼虫, とりわけオガサワラモモトコバナカミキリとオガサワラチャイロカミキリのいずれかあるいは双方を食していたことは確実であろう。(横浜市金沢区, 高桑正敏)

○対馬にフタスジゴマフカミキリ多産す

フタスジゴマフカミキリ *Mesosa cribrata* BATES は2亜種が知られ, ssp. *cribrata* は北海道, 本州に, ssp. *kirisimana* MATSUSHITA は四国, 九州, 対馬に産する。前亜種はオニグルミ, 後亜種はオニグルミ, アカマツ, クロマツ等の枯枝, 伐採枝に集ることが判明しているが, これまでに採集されている個体数は極めて少ない。九州では福岡県英彦山の記録もあるが, 中南部に産地が多い。対馬からは足立(1975)による厳原港附近のクロマツより羽化した1頭が知られているだけと思われる。

このたび筆者は, 対馬で調査の機会にめぐまれ, 最近恒例行事となった『松喰虫退治』で, 下記のようにかなりの本種を得たので報告しておく。

24頭, 14. vii. 1978, 14頭, 15. vii. 1978, 18頭, 18. vii. 1978, 19. vii. 1978, 23頭, 18. vii. 1978, 対馬厳原町久田; 5頭, 18. vii. 1978, 対馬厳原町厳原, 筆者採集。

同時にキュウシュウトゲバカミキリ55頭, ナカバヤシモモトカミキリ7頭が得られた。

今回, 筆者がマツクイムシを調査した地域にはマツ類の枯木は殆ど認められなかったので, 専らクロマツの枯枝での採集であった。

(福岡県宇美町, 入江平吉)

○宮城県初記録のキボシカミキリ

キボシカミキリ *Psacotheta hilaris* (PASCOE) は, 福島県ではすでに田添・大桃(1977)の報告により, 福島市信夫山などで1958年以来採集されていることが明らかであるが, 宮城県では未記録のようである。筆者は, 内山 隆氏の御厚意で宮城県産の次の標本を検査することができたので報告する。

3♂♂, 仙台市富沢, 6. viii. 1978, 菊池多絵採集。

なお, 採集個体はいずれも前胸側縁部の黄条が縦に連なる“関東型”であった。本種も北進を続けている南方系昆虫の1つとみなせるようである。調査に御協力いただいた菊池, 内山の両氏に厚くお礼申し上げます。(高知市, 島本竜一)

○キボシカミキリ, 高知県へ侵入

キボシカミキリ *Psacotheta hilaris* (PASCOE) は, 北四国では1953年に松山市にて得られた1♂(“Matsuyama, 15. viii. 1953, I. Furukawa”のラベルが付されている。愛媛県立博物館保管)が, 現存する最古の標本と思われる。北四国ではこの頃より愛媛, 香川両県の平地に分布域を広げているが, このほど筆者は愛媛県に近接する高知県吾川村(仁淀川水系)にて本種の分布を確認したので報告する。

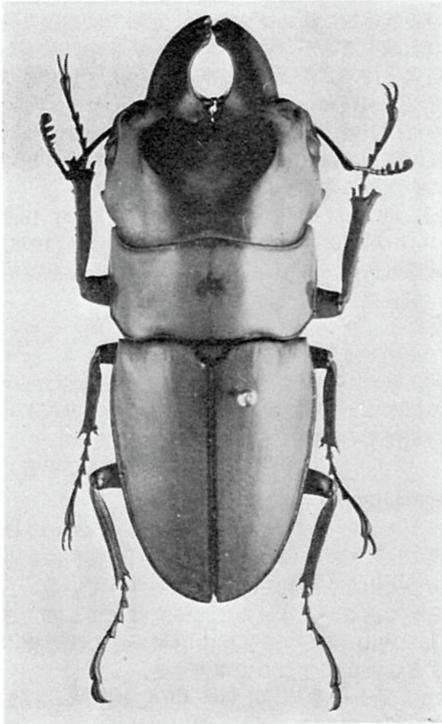
1♂, 吾川郡吾川村下北川(標高340m), 16. v. 1977材採集(イチジク立枯木), 22~23. v. 1977脱出, 島本竜一採集。

恐らくは, これが本種の高知県初記録ではないかと考えられる。なお, 愛媛県立博物館の楠 博幸氏には種々御教示いただいた。記して厚く御礼申し上げます。(高知市, 島本竜一)

○花に来るクワガタムシ(1)

Prosopocoilus occipitalis (HOPE et WESTWOOD, 1845)

12♂♂, 3♀♀, Bislig, Surigao del, Sul Mindanao, Philippines, 3. vii. 1977, 佐藤正孝採集。
フィリピンのミンダナオ島東海岸のビスリグにあ



るフィリピン製紙会社の植林地で採集した際に、植林されたユーカリ樹の花に来ていたものを佐藤正孝氏が採集した。花は白色で細かい小花が集って房状になったもので、捕虫網も届かないはるか高所に咲いていたが、採種のため花の下に槽が組んであったので採集することが出来た。花には他にハナムグリ其他いろいろな甲虫や蜂が来ていた。日本ではクワガタムシが花に来るなどということは常識では考えられなく、その様な記録も全くないが、熱帯地方では全く常識破りのことがあるものと感心したので、本種の写真と共に報告する。なお、本種はビルマとアンダマン諸島から、マレー半島、スマトラ、ボルネオ、パラワンを経てジャバ、セレベス、フィリピンと広く分布する普通種で、♂の個体変化も多い。写真は最大型に近い個体である。

(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○花に来るクワガタムシ(2)

ヒメミヤマクワガタ *Lucanus swinhoei* PARRY, 1874

今坂正一, 新里達也両氏から, 両氏が1977年5月

1日に、台湾省南投県蘆山温泉で、クリの花に来ていた本種を両氏とものおのの数頭ずつ採集された旨伺った。そこで、筆者も同年5月24日に同地を訪れたところ、クリの花は満開は過ぎていたものの、やはり同様にクリの花より本種1♂1♀を得ることができた。採集した時に花に来ていたことは間違いなく、その木から樹液が出ている様子もなかった。従って、本種がクリの花に誘引されたことは間違いなくと考えられる。前項の黒沢博士の報告と併せ考えると、クワガタムシ科にも訪花性があると考えられ、興味深い。(東京農業大学, 境野広行)

○ヤナギトラカミキリをめぐって

北海道産のクワヤマトラカミキリ *Xylotrechus rusticus* (LINNÉ) と従来呼んでいた個体に、実は2種類が含まれており、その一方を新種と認めてヤナギトラカミキリ *X. salicis* TAKAKUWA et ODA と命名した(1978, ELYTRA, 6(2): 49-52)が、このことについて若干の補足をしておきたい。

三橋信治(1906, 札幌博物学会会報, 1(2): 209)は“*X. Kuwayamae* MATSUMURA, n. sp.”という種を札幌から報告した(nom. nud.)が、この種については何の説明もなく、また、松村博士もついに *X. Kuwayamae* の記載を行なわなかった。したがって、*X. Kuwayamae* という種名は有効とは認められない。しかし、この種類(2種を含む)にクワヤマトラカミキリという和名が使用されてきた。

一方、現在の筆者らの知識では、三橋が *X. Kuwayamae* という名で報告した種の産地である札幌には *salicis* を産するが、*rusticus* を産するとは思えない。したがって、*kuwayamae* は *salicis* と同一である可能性が高いし、それならクワヤマトラカミキリという和名は *salicis* に対して与えられるべきであって、*rusticus* に付けるのはおかしい、という意見ももっともなことと思う。

しかし、和名はあくまで通り名である。旧北区一帯に産する *rusticus* に対してクワヤマトラカミキリという和名を使用してきたのに、それを別の和名で呼ぶことになり、一方、極限された分布域をもつ *salicis* にクワヤマトラカミキリという和名を当てるとなれば、少なからぬ混乱を与えてしまう。逆に *salicis* に新しく和名を付け、従来どおり *rusticus* にクワヤマトラカミキリという和名を与えておけば、通り名としての混乱はまずない。そうした思惑から筆者らは *salicis* にヤナギトラカミキリという和名を使用することを提唱した。

なお、北海道においては *rusticus* は奥土別や名寄市周辺、雨竜湖周辺など北部から発見され、一方 *salicis* は知床半島、陸別、札幌周辺など東部や西南部で発見されているが、前種がカンバ類の薪に集まるのに対し、後種はヤナギ類の生木に集まるという生態的な差に加え、♂生殖器に明らかな差があるので、特に北部において両種が同所に分布している可能性も強い。(横浜市金沢区, 高桑正敏, 神奈川県高座郡, 小田義広)

○納沙布岬のゴミムシ類

1978年8月2日、日有の最東端に位する根室半島の納沙布(ノサップ)岬において、ゴミムシ類を採集することができたので、簡単ではあるが報告しておく。

この岬は標高約20mの段丘性台地で、採集地点は灯台に近い礫のまじった砂地で、草勢のまばらな環境である。なお、採集時間は約1時間であった。

1. ヨツボシミズギワゴミムシ *Bembidion morawitzi* CSIKI

個体数は比較的多く、全部採集したならば30頭を越えていたであろう。羽化直後のものもみられた。

2. カギモンミズギワゴミムシ *Bembidion poppii* NETOLITZKY

個体数はやや多く、全部採集したならば20頭くらいであろう。ほとんどが羽化直後のものであった。

3. メダカチビカワゴミムシ *Asaphidion semilucidum* MOTSCHULSKY

僅かに1頭を得ただけである。砂地を歩行中のものであった。

4. トックリナガゴミムシ *Pterostichus hapteroides japonensis* (LUTSHNIK)

僅かに1頭である。砂地の芥下から得た。

5. セボンヒラタゴミムシ *Agonum impressum* PANZER

砂地の芥下から2頭を得た。個体数は少なくはない。

6. マルガタゴミムシ *Amara chalcites* DEJEAN

3頭を得た。個体数は少なくはない。

7. ゴミムシ *Anisodactylus signatus* (PANZER)

2頭を得たが、このうち1頭は死骸であった。

今回の採集で得られた種類は7種で、いずれも普通種であった。(北海道河西部芽室町、井上 寿)

○台湾の *Buprestis* 属 2種について

台湾の *Buprestis* 属に含まれるものは2種類あるが、いずれも原記載以来報告がないので報告する。

報告に当り、御助言いただいた黒沢良彦博士、標本を御恵与下さった下村 徹、新里達也両氏に深謝する。

1. *Buprestis* (s. str.) *esakii* Y. KUROSAWA, 1954

1♂, 台湾省南投県眉溪付近, 3~4. viii. 1978, 杜錦明採集; 2♀, 同上, 1~15. viii. 1978, 新里達也採集。

本亜種は *Mameisha*, Baron 産の各1♀によって記載されたが、黒沢博士によれば、British Museum より入手した *aurantiopicta* と比較された所、別種であり、むしろヨーロッパに広く産する *B.* (s. str.) *novemmaculata* LINNÉ, 1767 に近いという。又本種の♂は霧社でも得られているが、(未発表)共に同博士によって発表される筈である。加害植物については全く報告がないが、新里氏によれば松と広葉樹が混った伐採地で得たそうで、近隣の諸地域に分布する本属に含まれる種類は *Pinus* の仲間を食害しているの、恐らく松に産卵に来た

ものと思われる。

2. *Buprestis* (*Cypriacis*) *mirabilis* Y. KUROSAWA, 1969

4♂♂ 3♀♀, 台湾省台中県達盤橋付近, 7~10. vii. 1978, 秋山黄洋, 秀雄採集; 2♀♀, 同上, 25~27. vii. 1978, 下村 徹採集。

台中県達見(現在は德基)で得られた1♂1♀によって記載された台湾産タマムシ中最美の種類で、近似種 *B.* (*C.*) *labisi* DESCARPENTRIES, 1957 が南西中国に産するが、共に少ないものである。加害植物についての報告は全くないが、今年の台湾採集行で達盤橋(1500 m)付近の混雑林中の陽当りのよい斜面に根元より割れて倒れていた針葉樹の大木の根元付近で交尾したものや、他の部分では飛来してきたものや、幹をはっているものも採集した。又下村 徹氏は付近にある本種と同じと思われる立枯で採集されている。この2本には多数の脱出口が見られた事も考え合わせると、確実に本種が食害していると思われる。またこの倒木には *Ovalisia tonkinensis igneilimbata* KUROSAWA, 1954 タイワンクロホシタマムシ, *O.* sp. 等、カミキリではほとんど得られていないと思われる *Xylotrechus* (s. str.) *kayoensis* MITONO et KIRA, 1934 カヨウトラカミキリや *Anoplodera* (*Anostrangalia*) *dissimilis niitakana* (KANO), 1933 ニイタカハナカミキリを採集したが、これらの詳しい報告は別の機会に行いたい。(横浜市磯子区, 秋山黄洋)

○キタドウイロチビタマムシ対馬の記録

キタドウイロチビタマムシ *Trachys pecirkai* OBENBERGER, 1925 は黒沢良彦博士の日本産タマムシ科概説 18 (甲虫ニュース, No. 35, 1976, p. 2)によれば本邦では北海道から本州中部にかけて分布し、国外では朝鮮、シベリア東部、満州、中国をあげている。一方本種に近似した *T. cupricolor* については(甲虫ニュース, No. 34, 1976, pp. 2~3)本州、(中部以南)、四国、九州(中北部山地)に分布し、国外では台湾をあげている。大陸に産する標本は黒沢博士が検したものは全て *pecirkai* であったと記されているので、筆者も対馬に産するとすれば恐らく *pecirkai* であろうと思っていたが、先日松田 潔氏採集の対馬産タマムシを整理中、本種を見出したので報告する。報告にあたり平日頃より標本を御恵与いただいている松田 潔氏に深謝する。

1頭, 対馬御岳, 1. viii. 1977, 松田 潔採集。

なおドウイロチビタマムシの北限について黒沢博士が検したものは東京都奥多摩町日原であったが、大桃定洋博士からの私信によれば福島県で2頭採集されているとのことである(未発表)。情報をいただいた大桃博士に深謝する。

(横浜市磯子区, 秋山黄洋)

○日本産ハナノミ族の種別分布資料(2)

オオキボシハナノミ *Hoshihananomia auro-naculata nipponica* NOMURA

北海道: 北見支庁生田原町(高桑, 1977); 十勝支

甲虫ニュース

序トムラウシ (中根, 1957); 本州: 福島県双葉郡植葉町 (田添, 1966), 同いわき市江田 (1♀ 15. vii. 1978, 大桃定洋採集); 山梨県大月市小金沢林道 (高桑, 1974), 三重県一志郡平倉演習林 (穂積, 1975); 奈良県春日山 (NOMURA, 1962) (原産地); 四国: 愛媛県三牧村 (NOMURA, 1962); 高知県黒尊 (NOMURA, 1962); 九州: 対馬有明山 (2♂♂, 8. viii. 1970, 小岩屋 敏採集); 福岡県香春岳 (高倉, 1970); 屋久島 (高桑, 1969), トカラ列島中之島 (高桑, 1976)

奈良県春日山と屋久島では多数採集されているが、それ以外では単発の採集例が多い。

なお、現在 3 亜種に分れており、subsp. *amami-ana* NOMURA が奄美大島に、subsp. *auromaculata* (CHŪJŌ) が台湾に分布し、共に個体数は多い。

ウスキボシハナノミ *H. kurosai* CHŪJŌ et NAKANE

本州: 福島県南会津郡湯ノ花 (1♂, 26. vii. 1969, 郷 遠・直樹採集); 新潟県 (野村・馬場, 1966); 栃木市 (1♀, 12. v. 1968, 江本健一採集); 埼玉県狭山湖付近 (1♀, 12. vii. 1970, 江本健一採集); 東京都奥多摩海沢 (1♀, 2. viii. 1972, 郷遠採集); 岐阜市金華山 (1♀, 2. viii. 1970, 岩田圭二採集); 兵庫県氷ノ山 (CHŪJŌ et NAKANE, 1955) (原産地); 九州: 尾久島 (高桑・畑山, 1973)

屋久島では 2 頭採集されている。四国と九州本土からの報告を期待したい。

ニセキボシハナノミ *H. katoi katoi* NAKANE et NOMURA

高知県黒尊 (NAKANE et NOMURA, 1957) (原産地), 屋久島 (高桑・畑山, 1973), 奄美大島 (KIYOHAMA, 1975), 西表島 (高桑, 1976), 台湾 (野村, 1963; NOMURA, 1967)

既知産地は上記の 5ヶ所に限られているが、いずれの場所でもかなりの個体数が得られている。地域差が認められ、既に述べた (1976) ように奄美大島以北、西表島、台湾の 3 型に分けられる。小笠原には subsp. *boninensis* NOMURA を産する。

以上、データが記してあるものは、すべて筆者が所有している標本に基いている。

これら 3 種とも日本昆虫大図鑑 II に写真が示されているが、ウスキボシハナノミとニセキボシハナノミ原亜種は♂♀で斑紋がまったく異なる (♂は点状となる) ため、慣れないと同定を誤る可能性がある。

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号 (各号 100本 180円)

なお、有頭針00, 0号もできました。その他、採集

・標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

簡単には 3 種は次の点で見分けられる。

1. 複眼には多少とも短毛を備える; 前腿節は赤味をおびる……………ニセキボシハナノミ

— 複眼にはまったく毛を備えない; 前腿節はほとんど黒……………2

2. 上翅基部の紋は会合部に沿って後方へ伸びる; 小楯板の毛は通常は黒……………オオキボシハナノミ

— 上翅基部の紋は会合部に沿って後方へ伸びない; 小楯板の毛は全面黄色……………ウスキボシハナノミ

(横浜市金沢区, 高桑正敏)

○*Coraeus chrysogaster* Y. KUROSAWA, の記録

Coraeus chrysogaster はメタリックブルーの大型美麗種で、原記載で使用された 2♀♀ 以外報告がなかったが、三陰外茂治、鎌刈哲二両氏の御厚意により本種を検する機会を得たので報告する。

1♀, 台湾省南投県南山溪, 16. v. 1972, 鎌刈哲二採集; 1♂, 同上, 1. v. 1977, 三陰外茂治採集。

♂は♀に比べ細形で、触角は非常に長く前胸背をこえ、(♀は前胸背の半分程度)。後脛節に第 2 次性徴が出る。なお本種はトンキンから記載された *C. perroti* DESCAPENTRIES, 1948 に近く同種かと思っていたが、最近黒沢良彦博士の所で本種の♀ (paratype) を検する機会にめぐまれたが、触角及び前胸背の形がだいぶ異なっていた。また原記載に出ている♂の図を見ても触角が大幅違うので、明らかに別種であると思う。*perroti* の標本を見せて下さった同博士に深謝する。(横浜市磯子区, 秋山黄洋)

=〈連絡・報告〉=

前号でお報せ致しました 40 号までの総目次が出来上りましたのでお届け致します。これは柴田泰利氏の労作になるもので、完璧に近い便利なものになりました。面倒な仕事を無理にお引受け願った同氏に衷心より御礼を申し上げます。

甲虫談話会

会費 (一カ年) 1500円, 次号は 1 月中旬発行予定, 投稿〆切は 12 月 20 日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥ 5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥ 1,400, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3 個以下 ¥ 1,400, 4 個以上 ¥ 850 (以下同様), 第 2 地帯 ¥ 1,400, ¥ 950, 第 3 地帯 ¥ 1,600, ¥ 1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥ 140)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25

電話 (03) 811-4547, 振替 6-113479